

## 赤潮調査事業（毒化モニタリング調査）\*1

竹内照文・小久保友義・広田省三\*2

## 目 的

県下の主要貝類生産水域において貝類の毒化状況と毒化原因プランクトンの出現状況を調査し、貝毒監視体制の確立を図る。

詳細は「平成3年度赤潮防止対策事業報告書（毒化モニタリング調査）」に報告されている。

## 方 法

和歌浦湾と田辺湾でアサリ、田辺湾、串本浅海漁場と浦神湾でヒオウギガイを対象にして麻痺性貝毒（PSP）を41回、下痢性貝毒（DSP）を5回検査した。また、同時に*Alexandrium catenella* や*Dinophysis fortii*と*D. acuminata*の出現状況について調査した。

## 結 果

- 1 *A. catenella*は和歌浦湾では全く出現せず、また、串本浅海漁場や浦神湾では $10^1$ 、 $10^2$  cells/lのオーダーで出現していたが、アサリやヒオウギガイのPSPが規制値を超えることはなかった。
- 2 田辺湾では*A. catenella*が4月中旬から増殖し始め、5月中、下旬には $10^4$  cells/lを超えて、ピークを示した。ヒオウギガイのPSPは*A. catenella*の増殖に若干遅れて上昇し始め、4月下旬から7月下旬まで3ヶ月間規制値を超えていたが、この間、5月始めに最高値210MU/gを示した。しかし、アサリのPSPは5月下旬に可食部で2.2MU/gを示した他は全てNDであった。

*D. fortii*は5月下旬に出現しただけであったが、*D. acuminata*は5月中、下旬の $10^3$  cells/lをピークにして、3月下旬から6月下旬にかけてコンスタントに出現していた。しかし、アサリのDSPは全てNDであった。

---

\*1 赤潮調査事業費による。

\*2 水産課